



# 台湾 大国に翻弄された島

⑨ オランダ人に「フォルモサ」(美しい島)と呼ばれた台湾は、沖縄と同じく大国に翻弄された歴史を持ちます。戦前、日本領だった台湾に、出稼ぎで渡った県民の足跡をたどります。

## 台湾

**台湾データ**

首都	台北
人口	2360万人
面積	3万6千km <sup>2</sup>
主な言語	中国語、台湾語

**●玉山**  
台湾のほぼ中央に位置する標高3952mの山。台湾最高峰で、日本統治時代には富士山より高いことから新高山と呼ばれていました。

**●九份の夜景**  
台湾北部の山間の街。石段や狭い路地、赤い提灯がとる街並みがノスタルジックな雰囲気を出し出す街として台湾屈指の観光地です。

**●国立故宫博物院**  
台北にある世界有数の大型博物館。歴代皇帝が愛した約70万点もの中国美術工芸品が収蔵されています。

**●台北101**  
台北にある超高層ビル。地上101階建てで、名前はこれに由来します。地上400mの高さの展望台からは台北市内を一望できます。低層階にはショッピングモールもあり、食事や買い物を楽しめます。

**●タピオカミルクティー**  
台湾のドリンクスタンドで大人気。街中で手軽に楽しめます。

**●パイナップルケーキ**  
クッキー生地の中にパイナップルジャムが入った焼き菓子。お土産の定番です。

**台湾のデジタル担当大臣 オードリー・タン**

## 県系人の歩み

### 戦争、引き揚げで苦難

1895年、日清戦争に勝利した日本は、台湾を植民地としました。当時の台湾は発展著しく、特に製糖業が盛んでした。一方の沖縄は大変貧しく失業者も多かったため、多くの県民が仕事を求めて台湾に渡りました。定期航路を使わず自前の船で行く人、漁獲を求めて一定期間住み着くウミンチュ(漁師)もいました。1940年には台湾に住む沖縄人は1万4695人に上りました。

台湾での沖縄人は、日本本土からの移住者による差別や偏見にさらされながらも、さまざまな職種で働きました。そのような中から困難に負けず各界で活躍する人が現れます。後の戦後初代沖縄県知事・屋良朝苗もその1人でした。

台湾から沖縄に移住した人もいました。石垣島では台湾出身者がパイナップル栽培に成功し、缶詰工場を立ち上げました。彼らは戦中に栽培を禁止されたパイナップルを戦後復活させ、沖縄でパイナップル

産業を確立しました。また西表島の炭鉱で、過酷な強制労働に従事させられた人もいました。太平洋戦争が始まると、政府の命令で約1万3千人の沖縄県民が台湾に疎開しました。台湾でも沖縄と同じく、住民は防衛隊や学徒隊として軍隊に動員されました。45年には台北市内への空襲が本格化。多くの命が失われました。

戦争が終わると日本人47万人が台湾から引き揚げることになりました。その中に3万人もの



石垣市名蔵に建てられた台湾農業者入植顕彰碑—2012年8月

喜友名健一さんは嘉手納農林学校卒業後に渡台し、3千坪の農場がある台湾製糖株式会社に就職した。写真は研修作業中の畑作業—1938年(読谷村提供)



沖縄人がいました。沖縄人は「琉僑」と呼ばれ日本本土の人とは区別され、引き揚げ許可も後回しにされました。台湾の治安が乱れる中、琉僑は危険と飢えにさらされました。決死の覚悟で、ひそかに沖縄に戻った人もいました。

46年10月、沖縄への引き揚げが始まり、沖縄出身の元軍人が「琉球官兵」として帰還業務にあたりました。蓄えた財産を没収され、着の身着のままでの帰郷となりました。

終戦直後からの数年間、与那国島は台湾から物資を運ぶ密貿易の拠点として栄え、最盛期には人口が1万2千人にまで膨れ上がりました。今でも与那国島は台湾の花蓮市と姉妹都市協定を結び、交流を深めています。

### 沖縄から最も近い外国

台湾は与那国島から約111°離れた、沖縄から最も近い外国です。IT産業などが盛んで電子機器関連が主要な輸出品目となっています。紀元前から先住民が住んでいた台湾島に、17世紀、オランダ人が上陸し、アジア貿易の拠点とします。1661年に鄭成功が台湾を征服します

が、83年には清国領となります。1895年、日清戦争で日本が清国に勝利し、台湾は日本統治下に置かれます。太平洋戦争後、中華民国の一作になります。中華人民共和国樹立時の内戦に敗れた蒋介石らが、台北を首都として中華民国を維持。現在もその立場を堅持しています。

ハイサイってなんて言う?

你好 (ニイハオ)

### 三食外食、食べ歩きも人気

台湾は沖縄県の西南に位置する九州より少し面積の小さい島です。自然豊かで、富士山よりも標高の高い山や、雪の積もる地域もあります。日本で人気の観光地の台湾。一番人気は夜になると明かりがとる夜市で、毎日、買い物や食べ歩きを楽しむ人々で盛り上がります。外食文化が発達しており、三食外食も一般的。麺やスープを含め、ほとんどのメニューをテイクアウトできます。朝食専門店もたくさんあり、ヒラヤーチーをくるくる巻いたような蛋餅や豆乳が定番メニュー。お気に入りの店で朝食をテ

クアウトし、学校や職場に行って食べます。台湾は日本と同じく小学校6年、中学校3年、高校3年、大学が4~6年の教育課程で、高校までが義務教育です。日本より宿題も多く、全国テストの成績順に進学する学校が決まるので、子どもたちは長時間勉強します。バスケットボールや野球、卓球が人気で、世界で活躍する選手もいます。最近、子どもたちに人気の遊びはルービックキューブ。ものづくりゲーム「マイクラフト」を楽しむ子どもたちも多くなります。



### 台湾の美味しいレシピ 芝麻湯圓

台湾で元宵節(小正月)や冬至に食べる芝麻湯圓を紹介します。今回紹介するのは昔ながらのラードを使ったごま餡のレシピ。ラードが手に入らないときにはバターで代用できますよ。

**材料**

- 生地 もち米粉……………200g (白玉粉)
- ぬるま湯…160~180g
- ごま餡
- すりごま……………50g
- ラード(バター)…50g
- 黒糖……………40g

- 小さめの鍋にラードを入れて溶かし、いったん火を止めて黒糖を入れ、溶けるまでかき混ぜます。
- すりごまを入れてよくかき混ぜ、冷蔵庫で10分程度冷やします。
- 冷庫から取り出し、直径2cmに丸め、再度冷蔵庫で休ませます。
- ボールにもち米粉と、ぬるま湯を入れて、よくこねます。指たぶくらの固さになるよう水を調整します。

①手をぬらして生地を直径約2.5cmに丸め、手のひらで直径5cm程度の円形に押しつぶします。

②伸ばした生地の真ん中に③のごま餡を乗せて包み、ころころ丸めて団子を作ります。

③水を沸騰させた鍋に団子を入れ、浮いてきた後1、2分ゆでたら完成!

**一口メモ**

★そのまま食べてもおいしいですし、寒いときはお湯に黒糖、しょうが、甘酒を入れたスープに入れて食べると体が温まります。

た1年間だった」と振り返ります。山田さんは卒業後、沖国大図書館に就職。仕事の合間に同大で学ぶ留学生が「より沖縄での生活を楽しくするために」とお手伝いを始めます。「私も留学中に周りに助けられたから恩返しをしたかった」と話します。中国語を生かして県内観光施設に転職した後も、交流は続きました。「留学時代の経験は宝。ずっと台湾と中国語に関わりたい」と話す山田さん。「可能性も選択肢もたくさんある。やりたいことを諦めずに挑戦してほしい」とエールを送りました。

台湾留学中、語学学校の友人たちと共に大甲媽祖の祭りに見に行った山田麻紀子さん(写真右端)—2009年2月

指し沖縄国際大に入学しました。そこで台湾からの交換留学生と親しくなり、台湾に興味を持ちます。「帰郷した友人に会うために」3週間の台湾研修に参加。大学4年の時に交換留学で台湾に渡りました。山田さんは北大東村出身。村は英語教育が盛んで、欧米留学を目

### ステキな先輩!

## ずっと関わり続けたい

交換留学経験者 山田麻紀子さん(34)

山田麻紀子さん(34)は八重瀬町で大学時代、台湾に留学しました。帰国後も留学生と交流を持ちたり、中国語を生かせる仕事に就いたりするなど、台湾を身近に感じられる日々を過ごしています。山田さんは北大東村出身。村は英語教育が盛んで、欧米留学を目

指し沖縄国際大に入学しました。そこで台湾からの交換留学生と親しくなり、台湾に興味を持ちます。「帰郷した友人に会うために」3週間の台湾研修に参加。大学4年の時に交換留学で台湾に渡りました。山田さんは北大東村出身。村は英語教育が盛んで、欧米留学を目